

コンクリート工学「吉田賞」

鳥居・金大特任教授が受賞

金沢大の鳥居和之特任教授(材料工学)が、全国コンクリート工学の分野で顕著な功績を残した人をたたえる二〇一七年度の「土木学会吉田賞」(研究業績部門)に選ばれた。(山内晴信)

金大関係者では二人目。

北陸地方では、白山や立山などの安山岩や流紋岩といった火山岩をコンクリートに使うことが多い。これらの石は化学反応を起こし、劣化やひび割れが進む原因になる。火山岩を使ったコンクリートの工事は全国各

吉田賞を受賞した鳥居和之特任教授
— 金沢大で



地であり、研究が進んでいる北陸の事例に注目が集まっている。

鳥居特任教授は四十年ほ

ど前から調査を続け、反応のメカニズムを研究。火力発電所から出る石炭灰を混ぜた、劣化しにくいコンク

リートを使うことを勧めている。今回はこうした功績が評価された。

鳥居特任教授は「コンクリート学界で一番権威ある賞を受賞でき、非常にうれしい。地方の大学の先生の励みになれば」と話す。

「一つのテーマに腰を据えて長く研究できる」と地方の大学の長を語る。

「これからのコンクリート構造物は百年持たせないといけない」と話し、今後も研究を続けると強調した。

吉田賞は「日本コンクリート工学の父」と言われる吉田徳次郎にちなみ、コンクリート工事などの技術を向上させる目的で、一九六一年に創設された。